

二〇二四年六月七日

グランドの歓声響く雲の峰  
風鈴は雨の気配の風に鳴る  
墨の香の残る文机夏座敷  
額の花江ノ電はいま徐行中  
新じゃがの笑窪をはじく爪の先  
苔庭に小人の傘よ梅雨茸

康子  
かえる  
かえる  
智恵子  
よし女  
むべ

二〇二四年六月六日

余白なく巻葉犇く未草  
青梅に仄と虹さす桶の中  
熊注意札立つ山路蚩狩  
青嵐祈願の絵馬を打ち鳴らし  
麦の秋金波銀波にさざめける  
家々に灯ともり代田昏れにけり

きよえ  
むべ  
澄子  
康子  
明日香  
みきえ

二〇二四年六月五日

緑蔭に卓を移してティータイム  
夏草に分け入りて誦す一碑かな  
夏落葉嵩なし隠す皇子の歌碑  
な滑りそ畦に溢るる代田水  
園児らのお散歩コース薔薇アーチ  
部戸の簾に透きし茶室かな

澄子  
千鶴  
明日香  
せいじ  
満天  
澄子

二〇二四年六月四日

深呼吸して翅閉づる揚羽蝶  
摩天楼ビル並ぶごと雲の峰

むべ  
康子

二〇二四年六月三日

木苺の一つを口に畑の帰路  
雨雲の切れて日の射す青嶺かな  
息凝らし螢火そつと幼な手に  
道路いま川となりたる大夕立  
そぞろゆく日の斑の径や夏木立  
釣り上げし鮎の飛沫の珠光  
閑けさや瀬音に和する遠河鹿  
雷火一閃漆黒の闇裂きにけり  
濃紫陽花つづる茶室の小径かな

よし女  
明日香  
もとこ  
むべ  
千鶴  
明日香  
隆松  
むべ  
なつき

二〇二四年六月二日

千枚の植田展けし露天の湯  
書道紙の肘に張り付く薄暑かな  
里山を袈裟懸けに裂く夏燕  
城壁の白一文字万緑裡

よし女  
愛正  
風民  
あひる

二〇二四年六月一日

球場の歓声聞こゆ夏木立  
瑠璃蜥蜴我を一瞥して消ゆる  
池涼し逆さ映しに城櫓  
おちよぼ口突き出して吹くしゃぼん玉  
玉苗の切先並ぶ水面かな  
紋白蝶スローワルツに舞ひゆけり

千鶴  
明日香  
みきえ  
康子  
澄子  
むべ

毎日句会みものる選・二〇二四年六月九日